

コンツェルト Konzert のかたち

— 音楽家メンデルスゾーンの功績 —

講師：鳥井田 詩乃 (とりいだ・しの)

とき：11月20日・12月11日

ともに日曜日、昼2時～4時

ところ：公民館 3階講座室

定員：25名（申込先着順）

申込：11月8日（火）朝9時～

公民館 ☎ 572-5141

主催：公民館＋一橋大学言社研

「クラシック音楽」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。バッハの受難曲？ベートーヴェンの協奏曲？シューベルトの交響曲？現代の演奏会ではこうした「古典」の作品が演奏されますが、19世紀のコンサートは流行音楽が奏でられる場でした。演奏会に「古典」の音楽をもたらす契機となったのは、19世紀の音楽家フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディの活動です。ドイツ語では「演奏会（コンサート）」も「協奏曲（コンチェルト）」も共に Konzert といいますが、本講座では、演奏会の花形であるKonzert（協奏曲）を例に挙げ、Konzert（演奏会）の改革者メンデルスゾーンの功績を辿ります。

前篇では、メンデルスゾーンの生涯や19世紀の演奏会事情について整理します。後篇では、メンデルスゾーンの協奏曲の構造から、彼の目指した演奏会を考えていきます。

*本講座は音楽鑑賞を主と致しませんので、ご了承下さい。



一橋大学
院生講座

国立市内の一橋大学では、研究者をめざす大学院生たちが日々研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を続けてきました。最新の研究動向に触れるもよし！ 修行中の院生にアドバイスするもよし！ 院生が講師となって専門分野をご紹介します。